

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公開番号】特開 2002-102247 (P2002-102247A)
 【公開日】平成 14 年 4 月 9 日 (2002.4.9)
 【出願番号】特願 2000-306620 (P2000-306620)
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 B 18/20
 A 6 1 F 9/007

【F I】

A 6 1 B 17/36 3 5 0
 A 6 1 F 9/00 5 1 0
 A 6 1 F 9/00 5 1 2

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 6 月 1 日 (2004.6.1)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

角膜組織をレーザ光により切除して屈折矯正するレーザ手術装置において、レーザ光源からのレーザ光を導光するとともにレーザ光の切除領域を変える照射光学系と、屈折矯正データに基づいてレーザ光源及び照射光学系の制御データを得てその駆動を制御する制御手段と、制御データに基づいて角膜頂点を含む所定の領域内の屈折力を変える過程とその他の過程とに分け、角膜頂点を含む所定の領域内の屈折力を変える過程に入ることを報知する報知手段と、を備えることを特徴とするレーザ手術装置。

【請求項 2】

請求項 1 のレーザ手術装置は、患者眼が固視を行うための固視標を呈示する固視標呈示手段を備え、前記報知手段は前記固視標の呈示状態を変化させることによって前記報知を行うことを特徴とするレーザ手術装置。

【請求項 3】

患者眼にレーザ光を照射して手術を行うレーザ手術装置において、前記患者眼にレーザ光を照射して手術を行う期間のうち視力の維持、向上に重要な役割を果たす第 1 の期間とそれ以外の第 2 の期間を設定し、第 1 の期間を患者へ報知する報知手段を設けたことを特徴とするレーザ手術装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 6】

(1) 角膜組織をレーザ光により切除して屈折矯正するレーザ手術装置において、レーザ光源からのレーザ光を導光するとともにレーザ光の切除領域を変える照射光学系と、屈折矯正データに基づいてレーザ光源及び照射光学系の制御データを得てその駆動を制御する制御手段と、制御データに基づいて角膜頂点を含む所定の領域内の屈折力を変える過程とその他の過程とに分け、角膜頂点を含む所定の領域内の屈折力を変える過程に入るこ

とを報知する報知手段と、を備えることを特徴とする。

(2) (1)のレーザ手術装置は、患者眼が固視を行うための固視標を呈示する固視標呈示手段を備え、前記報知手段は前記固視標の呈示状態を変化させることによって前記報知を行うことを特徴とする。

(3) 患者眼にレーザ光を照射して手術を行うレーザ手術装置において、前記患者眼にレーザ光を照射して手術を行う期間のうち視力の維持、向上に重要な役割を果たす第1の期間とそれ以外の第2の期間を設定し、第1の期間を患者へ報知する報知手段を設けたことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】